

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

朱4は、4才の時に体験をよした。そのときは、神戸
 に行っていました。阪神・淡路大震災は、神戸
 の人々が、たけお知は、生きてるのでその人達のためにか
 ぼっていきたいです。10年前かともおれたいです。

朱4は、小さかたのてい神戸の工事中の人にちよつと手伝を
 してくださるよかったです。朱4の家は、たいじょうぶなけれ
 どほいどの家は震災をうけた家は、とてもたいへんそ
 うでした。

アトバリスは、アットでおかいる人は、ごありをま
 ちあつたすぐにけお。そして、よく量のあつてをしてい
 るとすぐあかくにまおいてるごたいじょうぶです。
 七才の人々におめいをいのつていきたいです。

ありがな お名前	朱 数江		年齢	14 才
ご住所	兵庫	都道府県	三木	市・郡

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	三木 市	町・村
フリガナ 氏 名	合田 勝代 (66歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

当時は、神戸市に住んで居て被災を少し受けましたが、息子一家が
田原市で大きな被害を知り、当日、田原までかけ付けて非常な
道路事情の中、逢えることが出来ました。あの日のことは、何年過ぎても
忘れることが出来ません。

メッセージ:震災当時は社会人一年目でもあり、思い出すことはいろいろあります。
神戸三宮へ勤めていた私は、地震の時、ちょうど出勤準備をしていました。
近所の知り合いの中でも、「食事の準備中で、ガスの栓を閉めるのに必死だった」というのは、母だけ。
自宅は神戸ではありませんでしたが、揺れは激しく、終わりが無いのではないかとと思うほど長く感じられたもので
す。

電車が動き出すようになり(もちろんいつもと違う路線で)、出勤してみると、道路はぐちゃぐちゃ。
アスファルトが粘土のように盛り上がっていて、非常にやわらかそうに見えました。
もちろん、実際に踏んでみるとやっぱり硬かったのですが……。
足元が危ないからと、足首まで覆われたスニーカーを買ったのもこの時です。

12月、初のルミナリエでは、「上を向いて歩こう」の曲が流れていました。
地震後入社してきた後輩と一緒に、配られていた温かいコーヒーを飲んだことを懐かしく思い出します。
その頃には会社付近は整備されていましたが、光の美しさとは裏腹に、まだまだこれから復興という地域もありま
した。

中越地震で活動を続けるボランティアの話からも、避けるのが困難な天災だからこそ、近所の住民同士はもちろん、
広範囲地区での連携・助け合いが重要だと思い知らされます。
会社でも「先手必勝」、「仕事は自ら作れ」と教えられましたが、ボランティア活動も同じなのだと思います。
自分になにができるか、ささやかなところから始めることが大切なのですね。

現在、我が家では「はばタン」が大人気です。
聞けばはばタンの誕生日も震災と同じ1月17日だとか。
ルミナリエはもちろん、国体や国体関連事業が、震災で心に傷を負った方々の救いとなるように、心から祈るばかり
です。

名前:公盛由季子

年齢:31

住所:兵庫県三木市